

市長総括説明会 6月定例市議会 (6月5日)

平成18年第3回市議会定例会が開かれました。

市長から説明のあった当面する市政の諸課題、ならびに主な提出議案の概要をお知らせします。

豊岡市総合計画の策定

新市の行政運営、まちづくりの指針となる「豊岡市総合計画」については、平成19年3月末の計画策定に向け、5月25日に開催された第5回「豊岡市総合計画審議会」に基本構想の策定について諮問しました。

審議会において、幅広い視点、長期的な展望のもとで審議をしていただき、10月末に答申をいただく予定です。

豊岡病院跡地利用計画

旧豊岡病院の跡地利用については、4月に開催された全員協議会で基本的な方向について理解を求めたところです。

また、地元住民説明会、若者を対象とした座談会、市ホームページを活用した意見聴取等を行い、いただいた意見を参考に、最終的に「豊岡病院跡地利用基本計画」を取りまとめ、5月下旬に関係者に配布しました。

今議会の理解を得て、民間事業者の公募手続きに着手したいと考えています。

行政改革の推進

市では、厳しい財政状況に対応し、新しい行政需要の財源確保を図るため、行政改革委員会、行政改革本部、行政改革グループ会議を設置し、行政改革を進めてきました。

基準や指針等、行政改革についての方向性を取りまとめるとともに、効率的・効果的な組織検討のあり方についての協議や具体的な補助金改革についての議論も始めました。また、行革の必要性を市広報でお知らせしたり、市民との意見交換の場「行革タウンミーティング」を旧市町単位で開催しています。

今後も議論を深め、今秋の行政改革大綱策定に向け、作

業を進めていきたいと考えています。

のじぎく兵庫国体の開催

国体開催まであと110日余りとなりました。国体参加者を万全の体制で迎えるため、関係機関・団体と協議しながら計画策定に取り組んでいます。また、啓発用品、スタッフ被服などの素材に、リサイクル製品を採用するなど、環境に配慮した国体となるよう努めています。さらに、新たな豊岡ファンを増やすとともに、台風23号支援に対する感謝の意を表すため、花いっぱい運動など、市民の皆さんにも協力をお願いしています。

豊岡らしさにあふれた国体を目指していきます。

防災施策

地域防災計画については、兵庫県の改訂スケジュールに併せ、鋭意、策定作業を進めており、このほど市としての計画案を取りまとめました。

計画案は、「みんなの力で命と暮らしを守る」を理念とし、「災害リアリズムに徹す

る」「減災の視点に立つ」「地域の力を蓄える」を基本指針にしています。

内容については、過去の履歴や教訓、住民意見などを反映するとともに、基本的事項を具体的に記述しています。

ちなみに、避難勧告および避難指示の発令基準は、従来よりも早い時期に行うこととしています。

北但ごみ汚泥処理施設の建設計画

豊岡市、香美町、新温泉町および北但行政事務組合は、本年2月23日に「一般廃棄物処理基本計画」を策定し、施設規模を決定しました。

また、この基本計画に基づき、北但行政事務組合として「循環型社会形成推進地域計画」を作成し、3月31日に国に承認されました。

新施設から発生する焼却灰および煤塵の溶融処理については、(財)兵庫県環境クリエイトセンターに処理委託することが決定されました。この決定は、域内での最終処分量が減ることと、コスト面でも有利であるとの判断に基づくも

のです。

但馬地域における医療のあり方の検討

平成16年度から実施された臨床研修医制度の影響等により、但馬地域でも住民への医療提供に重大な支障をきたしています。医師確保の努力が懸命に行われていますが、医師不足は構造的なものであり、今後も厳しい状況が見込まれます。

そこで、但馬の市町長および病院組合関係者で対応を協議した結果、各病院の機能分担と連携のあり方を見直し、但馬における医療システムを再構築することが不可欠との認識に至りました。その検討には、県当局にも指導的立場で参加いただくよう要望を行いました。具体的には、今後、検討組織を設置し、協議を進めることとなります。

災害時要援護者 避難支援対策

一人暮らし高齢者や重度障害者など、日常生活に支援を必要とする要援護者が、災害時に迅速に避難情報の提供や

避難支援が受けられる体制整備を図るため、「災害時要援護者登録制度」を発足させました。

現在、民生委員やケアマネジャーによる各戸訪問や郵送による対象者への登録勧奨を行っており、7月中旬には地域支援者に情報提供できるよう、登録台帳の作成を進めています。

また、区長をはじめ行政区の役員、民生委員などの地域支援者に、地域特性に合った支援方法などを協議していただき、制度が実効性のあるものにしたと考えています。

地域包括支援センターの設置

市の直営である豊岡地域包括支援センターは、豊岡健康福祉センター内に設置し、豊岡市社会福祉協議会に委託した地域包括支援センターのうち、城崎・竹野地域包括支援センターについては、城崎健康福祉センターに設置され、それぞれ4月から業務を始められています。

また、日高地域包括支援センターおよび出石・但東地域

包括支援センターならびに竹野、但東分室は、6月1日に各健康福祉センター内に設置されました。

しかしながら、保健師等専門職員の確保が困難な状況から、但東分室には保健師もしくは看護師1名が配置されており、当面は直営や地域包括支援センター間の連携を図ることで進めていきます。

市立西保育園建設 工事現場の地盤沈下

市立西保育園建設工事については、6月末の完成、7月18日の開園を目指し、順調に進捗しています。

建設現場の地盤沈下の状況については、沈下量は徐々に減少してきており、終息に向いつつあるものと考えています。現時点では、安全性に特に問題はないと考えていますが、引き続き安全管理には十分に注意を払い、慎重に対応していきたいと考えています。

第三セクター等の 経営検討委員会の設置

(株)北前館および(財)但馬地域市場産業振興センターから、

それぞれ経営改善策の策定について、市に対し検討依頼がありました。

市としては、出資・出捐をしている団体として、経営悪化の原因を検証し、経営改善の検討を行う必要があると考えています。そのため、経営の専門知識を有する者などで構成する経営検討委員会を設置し、今後の支援のあり方について基本方策を見出し、進めたいと考えています。

環境経済戦略の推進

環境経済戦略の推進を図るため、環境と経済が共鳴する事業の総合的な展開に向けて取り組んでいるところです。

具体的には、今年4月に事業者・市民等の連合体である「コウノトリ環境経済コンソーシアム」が設立されました。ここでは、地産地消の仕組みづくりをはじめ、コウノトリツーリズムの造成、エコエネルギーの利用促進等について総合的に調査研究し、実行していくこととされており、市としても可能な支援を行っていきたくと考えています。

また、(仮称)地域交流セ

ンターについては、地域づくりと経済活動を両立させる中核施設として、年内オープンを目指して整備を進めます。

円山川緊急治水対策 事業の進捗状況

河道掘削工事については、継続事業である湯島・戸島地区、立野地区、大磯地区の工事が進められます。また、新たに立野地区の河道掘削に着手するとともに、ひのそ島の掘削および立野地区土砂仮置場整備工事が、年度内に完了予定であると聞いています。

内水工事では、豊岡排水機場の改築に向けた基礎工事等に着手し、また、城崎排水機場についても、本年度に着手予定であると聞いています。

築堤工事については、一日市・宮島堤防については、用地交渉を開始しています。立野、江本堤防は、すでに工事着手されています。浅倉・赤崎地区でも地元説明会を終え、事業を進める予定であると聞いています。大磯塩津築堤は、4月から用地交渉が開始されています。

また、防災拠点については、

六方防災ステーションを整備するため、詳細設計に着手されるように聞いており、六地藏地区と立野地区では、用地交渉が開始されています。

橋梁工事については、現在、鳥居橋では橋脚撤去工事が進められており、また、北近畿タンゴ鉄道円山川橋梁の改築工事の詳細設計に着手されると聞いています。

今後、豊岡河川国道事務所所ならびに県と連携を密にし、沿川住民の意見を聞きながら、事業の推進を計っていきたくと考えています。

永楽館復原建築工事

市指定文化財「永楽館」を、国の補助制度を活用し、昔ながらの芝居小屋として復原し、観光および市民活動の拠点にしたいと考えています。平成20年秋の竣工予定です。今後、工事の安全はもとより、芝居小屋「永楽館」を通して文化財としての価値を認識しながら、施設運営や活用方法等について検討を行い、市民との交流とふれあいが図れるような施設の実現に努めていきたくと考えています。